

上田庄三郎 （うへだ じやうざぶろう） 教育評論家。明治一十七年十一月十日高知縣幡  
 多郡二所村生れ、昭和二十二年十月十九日歿（二八四—一九五六）。大正二  
 年高知師範學校卒。小學校訓導、校長等十餘年。大正十四年神奈川縣  
 雲雀ヶ岡兒童の村小學校を開校するほど新教育運動、更（さら）に教員組合啓  
 明會運動に参加。昭和四年（しやうわ じやう）小砂五忠義等と雑誌『綴方生活』を創刊。  
 その後も教育雑誌の編輯、著述に従事。戦後は『日本教育新聞』企劃  
 部長、『社會教育新聞』編輯等（携はり）、日本作文の會顧問を務めた。  
 『上田庄三郎著作集』全六卷（昭和五年—二年刊）がある。  
 著書に『横井小楠』（昭和十七年九月十八日啓文社）、『教育界人物  
 地圖』（昭和二十六年五月—二十日明治圖書株式会社）、『基地の子—  
 この事実をどう考えたらよいか』（清水幾太郎・宮原誠）共編、昭和  
 二十八年四月—二十五年光文社）等。

